

# 解答解説

## 定期テスト

### くもんの 2時間で ニヤンとかができる 中学歴史

#### 中3近現代

※〈 〉は別解です。

これだけ  
1

重要事項 ①

「ヨーロッパの火薬庫」に  
火がついて起こった第一次世界大戦

- 1  ① 三国同盟  
 ② 三国協商  
 ③ 火薬庫  
 ④ 第一次世界大戦  
 ⑤ 総力戦
- 2  ① ドイツ  
 ② イギリス  
 ③ バルカン  
 ④ オーストリア  
 ⑤ 連合国
- 3  ① 第一次世界大戦  
 ② 三国同盟  
 ③ 三国協商
- 4  ( イ → ウ → ア )

#### 解説

せうごふた

- ① 第一次世界大戦に日本は連合国側で参戦。1917年にはアメリカが連合国側に加わり、戦争は世界中を巻きこんだ。
- ② イタリアは領土問題をめぐりオーストリアと対立し、第一次世界大戦には1915年に連合国側で参戦した。

ロシア革命と、権益拡大をめざす日本の参戦

- ①  ① ロシア
  - ② ソビエト
  - ③ 五か年
  - ④ 二十一か条
  - ⑤ 大戦
- ②  ① 社会主義
  - ② ソ連
  - ③ 日英
  - ④ 中国
  - ⑤ シベリア
- ③  ① 日英同盟
  - ② ロシア革命
  - ③ シベリア出兵
  - ④ 二十一か条の要求
- ④  (ア → エ → イ → ウ)

解説

- ② 社会主義政府は、1922年に国名をソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)とした。
- ③ 日本は他国の撤退後も軍隊をとどめていたが、批判が高まり1922年に撤退した。

戦争が終結し、平和をめざす国際連盟が設立

- ①  ① ベルサイユ
  - ② 民族自決
  - ③ 国際
  - ④ ワイマール
  - ⑤ ワシントン
- ②  ① パリ講和
  - ② ウィルソン
  - ③ ドイツ
  - ④ 国際協調
- ③  ① ベルサイユ条約
  - ② 民族自決
  - ③ ワシントン会議
  - ④ 国際連盟
  - ⑤ ワイマール憲法

解説

- ② 民族自決とは、「それぞれの民族には、自らのことを自らで決める権利がある」という考え方である。
- ③ ワシントン会議では、日英同盟の廃止などを決めた日・米・英・仏の四か国条約や、海軍軍縮条約などが結ばれた。
- ⑤ 第一次世界大戦後の欧米では、デモクラシーの風潮から、民衆の政治参加が進んだ。

列強の力が弱まって、活発になったアジアの民族運動

- ①  ① 二十一か条
  - ② 三・一
  - ③ 五・四
  - ④ ガンディー
- ②  ① 山東
  - ② 民族自決
  - ③ 北京
  - ④ 抵抗(独立)
- ③  ① 三・一独立運動
  - ② ガンディー
  - ③ 山東省
  - ④ 五・四運動

解説

- ① この運動で政策転換を迫られた日本は、朝鮮で言論や集会の自由を限られた範囲で認めるなど、統治のしかたを一部改めた。
- ② インドは、戦後の自治を認めるというイギリスの約束を信じて多くの兵士を戦場に送ったが、この約束は守られなかった。
- ④ 朝鮮の三・一独立運動と同様に、中国の五・四運動も、反対運動が起きた月日がその名称になっている。

民衆の意向によって政策を決める民主主義を「デモクラシー」という

- ①  ① デモクラシー
  - ② 護憲
  - ③ 民本
  - ④ 米騒動
  - ⑤ 政党
- ②  ① 民主
  - ② 議会
  - ③ 吉野作造
  - ④ 原敬
- ③  ① 民本主義
  - ② 護憲運動
  - ③ 米騒動
  - ④ 政党内閣
- ④  (イ → ア → ウ)

解説

- ① 吉野作造は民本主義で、政治の目的を民衆の利益と幸福に置き、政策決定における民意の尊重を主張した。国民全体の総意で行われる民主主義とのちがいに注意する。
- ② 護憲運動の「護憲」には、立憲政治を守るという意味がある。

デモクラシーが生んだ社会運動と、大衆文化をおさえよう

- 1  ① 労働
  - ② 小作
  - ③ 普通選挙
  - ④ 治安維持
  - ⑤ ラジオ
- 2  ① 労働組合
  - ② 日本農民
  - ③ 全国水平
  - ④ 文化
- 3  ① 普通選挙法
  - ② 小作争議
  - ③ ラジオ放送
  - ④ 治安維持法

解説

- 3 ① 普通選挙法成立の背景には社会運動の発展があったが、女性や植民地の人々の選挙権は認められなかった。
- ④ 日本がソ連と国交を結んだこともあり、政府は共産主義運動が国内に広がることをおそれた。

世界恐慌がファシズムの台頭を招いた

- 1  ① ファシズム
  - ② 世界
  - ③ ニューディール (新規まき直し)
  - ④ ブロック
  - ⑤ 昭和
- 2  ① ファシスト
  - ② ニューヨーク
  - ③ ルーズベルト (ローズベルト)
  - ④ ナチス (ナチ党)
  - ⑤ 憲政
- 3  ① ナチス (ナチ党)
  - ② 昭和恐慌
  - ③ 世界恐慌
  - ④ ブロック経済
  - ⑤ ニューディール政策 (新規まき直し政策)
- 4  (ウ → イ → ア)

解説

- 3 ① ヒトラーはドイツ民族の優秀さと栄光の回復を主張し、自由主義を弾圧した。
- ③ 世界恐慌により世界各国が自由貿易をやめ、利害が対立。日本やドイツ、イタリアという新興工業国が最も影響を受けた。

満州事変は日本が権益を広げようとして起こった

- 1  ① 満州事変
  - ② 満州国
  - ③ 五・一五
  - ④ 二・二六
  - ⑤ 日中
- 2  ① 南満州
  - ② 溥儀
  - ③ 犬養毅
  - ④ 東京
  - ⑤ 抗日民族統一
- 3  ① 日中戦争
  - ② 満州事変
  - ③ 満州国
  - ④ 五・一五事件
- 4  (イ → ウ → エ → ア)

解説

- 3 ① 日本政府は「支那事変」とよんだ。
- ② 宣戦布告のない国家間の戦闘を「事変」という。
- ③ 満州国の建国に際し、「五族協和」などの理想がかかげられた。
- ④ 犬養毅首相は「話せばわかる」と言って最後まで将校たちを説得しようとした。

ヨーロッパで始まった第二次世界大戦と、戦争を続ける日本

- 1  ① 国家総動員
  - ② 大政翼賛会
  - ③ 皇民化
- 2  ① 第二次世界大戦
  - ② レジスタンス
  - ③ 日独伊三国
- 3  ① 日独伊三国同盟
  - ② 大政翼賛会
  - ③ 第二次世界大戦
  - ④ 国家総動員法
- 4  (ウ → イ → ア)

解説

- 3 ① この同盟の目的は、ドイツとイタリアがヨーロッパで、日本がアジアで指導的地位につくために協力し合うことであった。
- ② 同時期に労働組合も解散させられ、治安維持法による取りしまりがきびしくなり、自由な言論活動は難しくなっていた。
- ③ 第二次世界大戦の背景には、ドイツなどのファシズム諸国と、イギリスなどの反ファシズム諸国の対立があった。
- ④ この法律によって、国民を強制的に軍需工場で働かせることができるようになった。

日米交渉が決裂し、太平洋戦争が始まった

- 1  ① 日ソ中立
  - ② 太平洋
  - ③ ポツダム
  - ④ 原子爆弾〈原爆〉
- 
- 2  ① 勤労働員
  - ② 学徒出陣
  - ③ 学童疎開
  - ④ 東京大空襲
  - ⑤ 沖縄戦
- 
- 3  ① 原子爆弾〈原爆〉
  - ② ポツダム宣言
  - ③ 真珠湾
  - ④ 日ソ中立条約

解説

- 1 ① 広島では約14万人、長崎でも7万人を超える人々が犠牲になり、生き残った人々も放射能の後遺症などで苦しんだ。
- ② 1945年7月のアメリカ・イギリス・ソ連のポツダム会談で発表された。
- ③ アメリカへの交渉打ち切りの通告が真珠湾攻撃よりもわずかに遅れることになったため、アメリカは日本を強く非難した。

非軍事化と民主化が行われた日本の戦後改革

- 1  ① 連合軍総司令部
  - ② 北方領土
  - ③ 極東国際軍事
  - ④ 日本国憲法
- 
- 2  ① マッカーサー
  - ② 労働基準
  - ③ 財閥
  - ④ 農地
  - ⑤ 教育基本
- 
- 3  ① 極東国際軍事裁判
  - ② 農地改革
  - ③ 国民主権
  - ④ 連合軍総司令部〈GHQ〉

解説

- 1 ① この裁判では、戦争において指導的役割をはたしたA級戦犯が裁かれた。
- ② 地主の持つ一定面積を超える小作地を国が強制的に買い上げ、小作人に安く売りわたした。
- ③ 日本国憲法には、新しい時代に対する当時の国民の期待がもりこまれていた。
- ④ 総司令部は日本政府に、経済の民主化や教育の自由化など五大改革の指令を出した。

資本主義と共産主義の対立が生んだ冷戦

- 1  ① 国際連合〈国連〉
  - ② 冷たい
  - ③ 中華人民共和国
  - ④ 朝鮮
- 
- 2  ① 特需
  - ② アジア・アフリカ
  - ③ 南北
  - ④ ベトナム
- 
- 3  ① アジア・アフリカ会議
  - ② 朝鮮戦争
  - ③ 特需景気〈朝鮮特需〉
  - ④ 国際連合〈国連〉
- 
- 4  (ウ → イ → ア)

解説

- 1 ① 第二次世界大戦後、アジアやアフリカでは多くの独立国が生まれ、インドネシアのように戦争で独立を勝ち取った国もあった。
- ② 国連の安全保障理事会はソ連が欠席するなか軍の派遣を決め、アメリカ軍を中心とする国連軍が韓国を支援した。
- ③ 国連の安全保障理事会の常任理事国(米・ソ・英・仏・中)は拒否権を持っており、5か国すべてが合意しなければ理事会は決議できない。

日本の独立と平和を求める動き

- 1  ① サンフランシスコ平和
  - ② 日米安全保障〈日米安保〉
  - ③ 日ソ共同
  - ④ 安保闘争
- 
- 2  ① 日韓基本
  - ② 沖縄
  - ③ 非核三原則
  - ④ 日中平和友好
- 
- 3  ① 日韓基本条約
  - ② 日ソ共同宣言
  - ③ 日中平和友好条約
  - ④ サンフランシスコ平和条約
  - ⑤ 日米安全保障条約〈日米安保条約〉
- 
- 4  (エ → イ → ア → ウ)

解説

- 1 ① 日本は韓国とは国交を正常化したが、北朝鮮とは、まだ国交がない状態である。
- ② 日ソ共同宣言では、北方領土問題は未解決のまま、戦争状態の終了を宣言した。
- ③ 日本は中国と国交を正常化して、中華民国(台湾)とは国交を断絶したが、貿易など民間レベルでの関係は続けられている。

14 重要事項 ④

戦後，経済大国へと成長する日本の暮らしをおさえよう

- 1  ① 高度経済成長
- ② 公害
- ③ 環境
- 2  ① テレビ
- ② マスメディア
- ③ 東京オリンピック
- ④ 石油危機 (オイル・ショック)
- 3  ① 高度経済成長
- ② 公害
- ③ 石油危機 (オイル・ショック)
- ④ テレビ

解説 せうぎんぱだ

- ① 高度経済成長の間の1964年にアジア初のオリンピックが東京で開かれ，これに合わせて東海道新幹線や高速道路も開通した。
- ② 公害は，水俣病，新潟水俣病，四日市ぜんそく，イタイイタイ病など深刻な被害を生んだ。
- ③ 石油危機は，物価の上昇やトイレットペーパーなどの品不足などをもたらし，産業界は大打撃を受けた。
- ④ テレビ放送が開始された当時，テレビの値段は高額だったため，街角に設置された街頭テレビが人気を集めた。

15 重要事項 ⑤

冷戦後の世界はグローバル化をめざす

- 1  ① 冷戦
- ② 湾岸
- ③ ソ連 (ソビエト社会主義共和国連邦)
- ④ PKO
- ⑤ EU
- 2  ① サミット
- ② ベルリン
- ③ APEC
- ④ 東西ドイツ
- ⑤ バブル
- 3  ① イラク戦争
- ② 冷戦の終結
- ③ バブル経済
- ④ ヨーロッパ連合

解説 せうぎんぱだ

- ② 冷戦の終結後ソ連が解体し，その結果アメリカが世界規模で軍事行動を行える唯一の超大国になった。
- ④ EUは，冷戦の終結にともない民主化した東ヨーロッパに拡大するとともに，経済・政治の統合を進めている。

16 重要人物 ①

ロシア革命と国際協調の動き

- 1  ① ウィルソン
- ② 新渡戸稲造
- ③ ニコライ2世
- ④ レーニン
- 2  ① ロシア
- ② ロシア
- ③ 国際連盟
- ④ 民族自決
- 3  ① ウィルソン
- ② 新渡戸稲造
- ③ レーニン
- ④ ニコライ2世

解説 せうぎんぱだ

- ① ウィルソン大統領は「十四か条の平和原則」の中で，軍備縮小，民族自決の原則，国際平和機関の設立などを示した。
- ② 国際連盟事務局次長を務めた新渡戸稲造は，国際平和のために尽くした。
- ③④ レーニンは，ニコライ2世が皇帝を退位したあと，亡命先からロシアにもどり，ソビエトによる政府を作り上げた。

17 重要人物 ②

アジアの民族運動と指導者たち

- 1  ① 袁世凱
- ② ガンディー
- ③ 蔣介石
- ④ 孫文
- 2  ① 抗日民族統一戦線
- ② 非暴力
- ③ 三民
- ④ 二十一か条の要求
- 3  ① ガンディー
- ② 孫文
- ③ 袁世凱
- ④ 蔣介石

解説 せうぎんぱだ

- ① ガンディーは，塩税に抗議して行った「塩の行進」などで庶民から広い支持を受け，独立運動を発展させた。
- ② 孫文は中国革命の父とよばれる。
- ③ 袁世凱は孫文らとの約束をやぶり，議会を無視して独裁政治を行ったため，中国では混戦が続いた。
- ④ 蔣介石は軍人として孫文の信頼を得て，孫文の死後にその後継者になった。

大正デモクラシーと  
社会運動の立役者たち

- ① 美濃部達吉
- ② 平塚らいてう(らいてう)
- ③ 原敬
- ④ 吉野作造

- ① 天皇機関
- ② 新婦人協会
- ③ 民本
- ④ 政党

- ① 美濃部達吉
- ② 原敬
- ③ 吉野作造
- ④ 市川房枝
- ⑤ 平塚らいてう(らいてう)

解説 せうぎゃんぱ

- ① 美濃部達吉の天皇機関説は学会で支持されたが、国会などで攻撃され、著書は発売禁止になった。
- ② 原敬は、華族でも藩閥出身でもないことから「平民宰相」とよばれた。
- ③ 吉野作造の唱えた民本主義は、護憲運動を理論面で支えた。

大正の美術・文学の  
新しい動きをおさえよう

- ① 小林多喜二
- ② 谷崎潤一郎
- ③ 志賀直哉
- ④ 芥川龍之介

- ① 白樺
- ② 夢二
- ③ 夏目漱石
- ④ プロレタリア

- ① 小林多喜二
- ② 竹久夢二
- ③ 谷崎潤一郎
- ④ 志賀直哉
- ⑤ 芥川龍之介

解説 せうぎゃんぱ

- ① 『蟹工船』には、北洋漁業での過酷な労働や、労働者が団結して戦う姿がえがかれている。
- ② 竹久夢二のえがいた雑誌のさし絵は、女学生から熱狂的な支持を得た。
- ③ 芥川龍之介の『蜘蛛の糸』は、児童文学に大きな足跡を残した童話雑誌「赤い鳥」に掲載された。

大正の新しい学問と音楽を  
おさえよう

- ① 柳田国男
- ② 西田幾多郎
- ③ 山田耕筰
- ④ 柳宗悦

- ① 民芸
- ② 善の研究
- ③ 童謡
- ④ 民俗

- ① 山田耕筰
- ② 柳田国男
- ③ 西田幾多郎
- ④ 柳宗悦

解説 せうぎゃんぱ

- ② 柳田国男は庶民生活の歴史について、現地調査による研究手法を確立した。
- ③ 西田幾多郎は、西洋と東洋の哲学の融合を試みて『善の研究』を著した。
- ④ 柳宗悦は民芸運動の提唱のほか、沖縄や朝鮮の伝統的な美術文化も研究した。

世界恐慌と欧米諸国それぞれの主義

- ① スターリン
- ② ヒトラー
- ③ ルーズベルト (ローズベルト)
- ④ ムッソリーニ

- ① ナチス (ナチ党)
- ② ニューディール
- ③ 五か年計画
- ④ ファシスト

- ① ムッソリーニ
- ② ヒトラー
- ③ スターリン
- ④ ルーズベルト (ローズベルト)

解説 せうぎゃんぱ

- ①② ムッソリーニやヒトラーが進めたファシズムとは、民族と国家の利益を最優先する軍国主義的な独裁政治の体制のこと。暴力や他国への侵略により国民をまとめようとした。
- ③ スターリンは、自分に敵対する可能性のある人々を次々に処刑した。
- ④ ルーズベルトはラジオを通じて、直接国民に新しい政策を訴えかけた。

満州をめぐる絡み合う中国・日本

- 1  ① 近衛文麿
  - ② 毛沢東
  - ③ 溥儀
  - ④ 犬養毅
- 
- 2  ① 大政翼賛会
  - ② 五・一五
  - ③ 中華人民共和国
  - ④ 満州国
- 
- 3  ① 犬養毅
  - ② 近衛文麿
  - ③ 溥儀
  - ④ 毛沢東

解説 せうニヤンダ

- 3  ① 犬養毅首相は満州国の承認に反対していたが、後継の斎藤実内閣は満州国を承認した。
- ③ 溥儀は、清朝最後の皇帝で、1911年の辛亥革命のため退位。1932年に満州国執政となり、1934年皇帝に即位した。
- ④ 毛沢東は蒋介石と抗日民族統一戦線を作るが、日中戦争が終わると中国のあり方をめぐって再び対立した。

第二次世界大戦と日本の敗戦

- 1  ① マッカーサー
  - ② 東条英機
  - ③ チャーチル
  - ④ 昭和天皇
- 
- 2  ① 玉音
  - ② 大西洋憲章
  - ③ 連合国軍総司令部 (GHQ)
  - ④ 太平洋
- 
- 3  ① 東条英機
  - ② 昭和天皇
  - ③ チャーチル
  - ④ マッカーサー

解説 せうニヤンダ

- 3  ① 1941年10月、陸軍大臣東条英機が首相になると、政府は戦争の準備を進め、昭和天皇が臨席する御前会議で開戦を決定した。
- ③ チャーチルとルーズベルトが大西洋憲章で発表した平和構想は、国際連合の基礎となった。
- ④ マッカーサーを最高司令官とするGHQは、日本政府にポツダム宣言に基づく指令を出し、民主化を進めた。

植民地だった国の解放と日本の外交

- 1  ① フルシチョフ
  - ② ネルー
  - ③ 岸信介
  - ④ ケネディ
- 
- 2  ① 冷戦
  - ② 日ソ共同
  - ③ キューバ
  - ④ 平和五原則
- 
- 3  ① ケネディ
  - ② ネルー
  - ③ 鳩山一郎
  - ④ フルシチョフ
  - ⑤ 岸信介

解説 せうニヤンダ

- 3  ①④ ケネディとフルシチョフはベルリンのあつかいをめぐって対立し、ソ連側によるベルリンの壁建設につながった。
- ② 1954年にネルーと周恩来が発表した平和五原則は、領土・主権の相互尊重、相互不可侵、平和共存などから成っていた。
- ⑤ 岸信介は東条英機内閣の商工大臣を務め、戦後に戦争犯罪容疑者になったが不起訴。公職追放解除後に、政界に復帰した。

国交正常化から経済成長までの歩み

- 1  ① 周恩来
  - ② 池田勇人
  - ③ 田中角栄
  - ④ 佐藤栄作
- 
- 2  ① 所得倍増
  - ② 中国共産
  - ③ 沖縄
  - ④ 日中共同声明
- 
- 3  ① 田中角栄
  - ② 佐藤栄作
  - ③ 池田勇人
  - ④ 周恩来

解説 せうニヤンダ

- 3  ① 日中共同声明の中で、日本は戦争で損害をあたえた責任を認め、深く反省したうえで、中国側は日本への賠償責任を放棄することが決められた。
- ② 1972年に沖縄返還が実現したが、軍事基地にともなう問題や住民の不安は、現在もまだ解決していない。
- ④ 1949年、毛沢東を主席、周恩来を首相として中華人民共和国が建国された。

多様化する戦後文化の作り手たち

- 1  ① 手塚治虫  
 ② 川端康成  
 ③ 湯川秀樹  
 ④ 黒澤明

- 2  ① 映画  
 ② ノーベル  
 ③ 漫画  
 ④ 新感覚

- 3  ① 川端康成  
 ② 手塚治虫  
 ③ 黒澤明  
 ④ 湯川秀樹

解説 せうぎゃんが

- 3  ① 川端康成のノーベル賞の受賞記念講演は「美しい日本の私」と題され、同時通訳で行われた。  
 ② 手塚治虫は学生のころからストーリー漫画をえがき、その後、第一人者となった。  
 ③ 黒澤明の『羅生門』は、日本映画を海外に認めさせるきっかけとなった。  
 ④ 1949年の湯川秀樹のノーベル賞受賞は、戦後の国民に大きな勇気をあたえた。その後、多くの日本人がノーベル賞を受賞するようになった。

テスト 1

表や図を使った問題  
 大事なできごとや用語は、  
 表や図に整理してまとめよう

- 1  ① イギリス  
 ② ドイツ  
 ③ A  
 ④ ベルサイユ条約

- 2  ① 満州事変  
 ② 五・一五事件  
 ③ 二・二六事件  
 ④ 日中戦争  
 ⑤ 第二次世界大戦  
 ⑥ 日独伊三国同盟  
 ⑦ 太平洋戦争  
 ⑧ ポツダム宣言

- 3  ① 国民  
 ② 象徴  
 ③ 基本的人権  
 ④ 平和

- 4  ① 芥川龍之介  
 ② 小林多喜二  
 ③ 山田耕筰  
 ④ 柳田国男  
 ⑤ 川端康成  
 ⑥ 手塚治虫  
 ⑦ 黒澤明

テスト 2

地図を使った問題  
 どこであったできごとなのか、  
 必ず場所と結びつけて覚えよう

- 1  ① ロシア革命  
 ② ソビエト社会主義共和国連邦 (ソ連)  
 ③ イ  
 ④ エ  
 ⑤ ウ

- 2  ① エ  
 ② 満州国  
 ③ { A エ  
                   B ウ  
                   C ア

- 3  ① { A アメリカ  
                   C 中国  
 ② エ  
 ③ ドイツ { イタリア  
 ④ 日ソ中立条約

- 4  ① イ  
 ② ベルリンの壁  
 ③ エ  
 ④ ア

解説 せうぎゃんが

- 1 地図中のイはインド、ウは中華民国、エは朝鮮である。  
 2 地図中のアは樺太、イは朝鮮、ウは遼東半島である。  
 3 ②日本は石油の大部分を、アメリカからの輸入に依存していた。③答えは順不同。  
 4 ④アメリカ西海岸のサンフランシスコで条約が結ばれた。

テスト 3

写真や絵・資料の一部を使った問題  
 写真・絵があるものはチェックしよう  
 資料のキーワードに気をつけよう

- 1  ① 二十一か条の要求  
 ② パリ講和会議  
 ③ 五・四運動

- 2  ① ポツダム宣言  
 ② 広島  
 ③ 8月15日

- 3  ① サンフランシスコ平和条約  
 ② 吉田茂  
 ③ 日米安全保障条約 (日米安保条約)  
 ④ 日ソ共同宣言  
 ⑤ 国際連合

- 4  ① ベルリンの壁  
 ② イ { カ  
 ③ ユーロ

解説 せうぎゃんが

- 1 日本はドイツから山東省の権益を引きついでが、のちにワシントン会議の決定により、中国に返還した。  
 2 ②広島の原爆ドームは、核兵器使用の悲惨さを後世に伝えるため、1996年に世界遺産に登録された。  
 3 ①②サンフランシスコ平和条約の締結により、GHQによる占領は1952年4月に終了し、日本は主権を回復した。  
 4 冷戦終結後も、世界ではさまざまな対立や紛争が起こっている。②答えは順不同。



- 1  ① 大正デモクラシー  
 ② 護憲運動  
 ③ 米騒動  
 ④ 全国水平社  
 ⑤ 普通選挙法

- 2  ① ×  
 ② ○  
 ③ ×  
 ④ ○

- 3  ① 一  
 ② 二  
 ③ 二  
 ④ 一  
 ⑤ 二

- 4  ① ウ  
 ② エ  
 ③ ア  
 ④ イ

解説

せうぎんだ

- 1 ②護憲運動は都市部から全国に広がり、さまざまな層の人が参加した。  
 2 ①世界恐慌は、ニューヨーク株式市場の暴落から始まった。  
 ③ナチスを率いたのはヒトラーである。  
 3 人類はわずか30年の間に、二度も世界大戦を引き起こした。  
 4 条約や声明などの、日本との相手国を確認しておこう。

- 1  ① 三国協商  
 ② 三国同盟  
 ③ 火薬庫  
 ④ 日英同盟  
 ⑤ 総力戦

- 2  ① 満州事変  
 ② 溥儀  
 ③ 満州国  
 ④ 国際連盟  
 ⑤ 盧溝橋  
 ⑥ 日中戦争

- 3  ① マッカーサー  
 ② GHQ  
 ③ 日本国憲法  
 ④ 教育基本法  
 ⑤ 民法  
 ⑥ 財閥  
 ⑦ 農地改革

- 4  ① 高度経済成長  
 ② 東京オリンピック  
 ③ 公害  
 ④ 公害対策基本法  
 ⑤ バブル  
 ⑥ 阪神・淡路  
 ⑦ 東日本